資料１

中部様式

令和７年度　地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
（及び地域公共交通計画の評価結果）　概要（全体）

可児市地域公共交通協議会
（可児市）

平成２０年２月１日設置

令和元年７月　可児市地域公共交通網形成計画策定
（計画期間：令和元年８月～令和９年３月）

令和６年３月　可児市地域公共交通網形成計画一部改訂

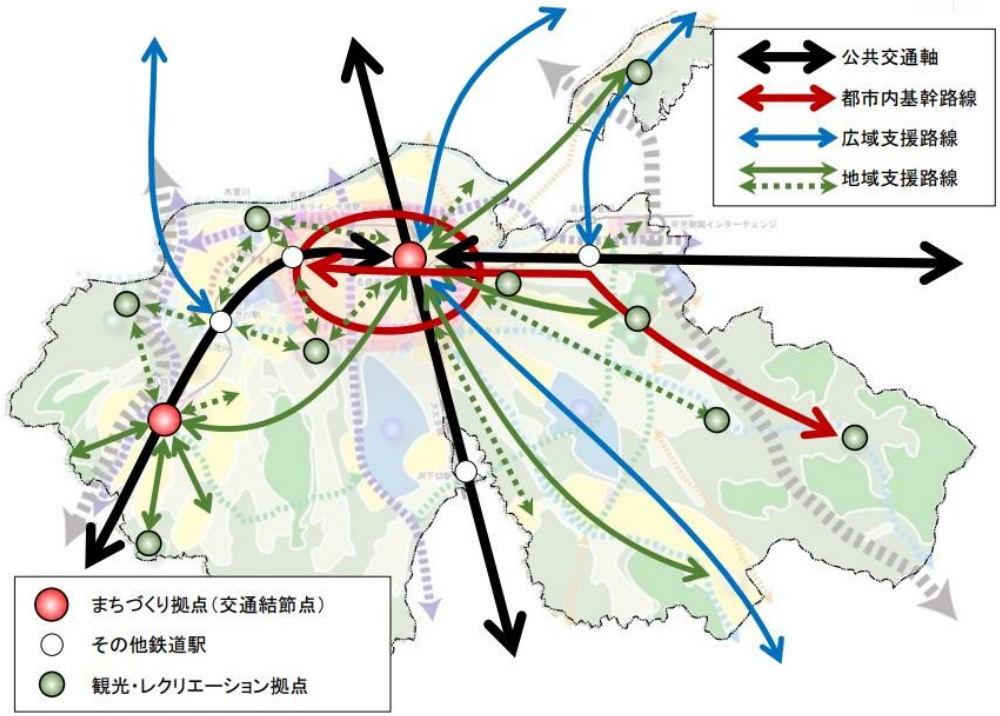
1.【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿

可児市の概要

面　積		87.57㎢（東西16.6㎞、南北11.0㎞）
人　口		99,262人（R7.12.1現在）
交通	主要道路	東海環状自動車道、国道21号・41号
	鉄　道	ＪＲ太多線、名鉄広見線 （可児駅）　（新可児駅、西可児駅）
	路線バス	東濃鉄道
観光名所		ぎふワールドローズガーデン、 国史跡 美濃金山城跡等の山城、 かぐや姫の散歩道

・昭和40年代に団地開発が進み、人口が急増。
・現在は、人口の内、外国籍が9,578人（約9.6%）
・市内には、東海地方最大級の可児工業団地をはじめ、４つの工業団地があり、製造業が盛ん。

可児市における地域公共交通体系のイメージ



交通将来像

また来たい　ずっと住みたい　まちの魅力を支える公共交通

基本方針Ⅰ　可児駅・新可児駅、西可児駅を中心とした公共交通ネットワークの維持を基本としつつ、高齢者の日常生活や若者の通学を支える、まちづくりや観光振興と連携した公共交通サービスの提供

基本方針Ⅱ　地区住民が日常生活の中で安心して利用でき、来訪者にもわかりやすい公共交通利用環境の充実

基本方針Ⅲ　可児市の公共交通に関わる全ての関係者が連携・協働し、公共交通を支え育む取り組みの推進

2.【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

取組名称	取組概要	実施結果	実施結果の考察等
①バスロケーションシステム及び乗降数自動カウントシステムの導入	バス利用者にスマホ等でバスの位置情報や接近情報、遅延情報などを提供するシステム。バスの乗客数やバス停ごとの乗降記録を自動で確認できるシステム。	・市へ問合せがあった場合、即時に回答することができるようになった。 ・乗降数の集計作業の負担が軽減された。	・スマホが使える世代を中心に「使いやすい」という声が上がっている。 ・利用方法の周知が必要である。 ・運行情報や利用者実績データをダイヤ改正等の参考にする。
②バリアフリー対応	車いす利用者が安心して利用できるよう、時刻表やバスロケ画面に車いす利用の可否を掲載（アイコン表示）。	・時刻表等で車いす利用の可否が確認できるようになった。	・今後は、運行事業者協力の下、接遇面などの取組を推進していく。
③バス無料ＤＡＹやＰＲ物品の配布	子どもたちにバスに親しんでもらえるよう、夏休みや春休み等に無料ＤＡＹを実施。	【お盆休み期間中】 ≪利用者≫ R5年度：145人／日 R6年度：219人／日 ≪子ども≫ R5年度： 8人 R6年度：75人	・普段バスに乗ることがない子どもたちが、バスに乗るきっかけとなった。 ・３市町共同運行のコミュニティバス「ＹＡＯバス」の無料ＤＡＹに関連し、八百津町で開催されるイベントに可児市ＰＲブースも設置予定。 ・さつきバスを象ったティッシュＢＯＸカバーは、「一家に一台」を目標に配布。



スマホのバスロケ画面（車いすアイコン）



ペーパークラフトのティッシュＢＯＸカバー

2.【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

取組名称	取組概要	実施結果	実施結果の考察等
④バス乗り方講座	地域での高齢者サロンや地区センターでの講座等でバスの概要や乗り方の講座を実施。R7.3月の広報紙でバスの特集記事に合わせて、「乗り方講座やりませんか？」という案内を掲載。	（講座実施回数） R5　4回 R6　4回 R7（12月現在）　9回 （さつきバス利用者数） R4　47,831人 R5　51,439人 R6　54,273人	・高齢化に伴い、バスの利用ニーズが高まってきている。地域ごとに使えるバスが異なるため、その乗り方を丁寧に説明することが求められる。
⑤「電話で予約バス」の停留所追加	主な利用者である高齢者のニーズが高い医療機関等の停留所を追加。	（電話で予約バス利用者数） R4　25,741人 R5　27,498人 R6　27,422人	・運行事業者及び医療機関の協力の下、ニーズが高い場所に停留所を設置することで、利用者が増えた。また、病院側も「電話で予約バス」のリーフレットの設置に協力いただいている。
⑥ワークショップ （次期計画の基礎調査の一環）	さまざまな関係者が参加し、実車を踏まえた、さつきバスの現状や課題、改善案等を協議。	可児市地域公共交通協議会委員、可児市職員、可児市議会議員、地域住民、岐阜大学大学院生等の24人が参加。	・データやアンケートだけではなく、フィールドワークで気付いた現状や課題を改善につなげる（一部実施済み）。



シルバー人材センターにて実施した乗り方講座



病院の入口に設置した停留所



ワークショップ
（さつきバスでの地域ツアー）

計画全体の目標値

■公共交通全体の利用者数の維持・増加

※は「2023」年度の実績（R5年度中間評価による市民アンケート結果より。

目標とする指標	目標値[2026]	実績値[2024]	計画策定時[2017]	考察
ＪＲ太多線	753,000人/年	※　735,723.人/年	751,428人/年	コロナ禍以降、利用者は年々増加傾向にあるが、コロナ前の水準には戻っていない。
名鉄広見線	2,814,150人/年	※ 2,329,870人/年	2,811,230人/年	
路線バス	520,130人/年	368,088人/年	518,058人/年	利用者の減少による減便もある（減便による利用者の減少）。
ＹＡＯバス	83,690人/年	44,122人/年	78,894人/年	コロナ禍以降、利用者は年々増加傾向にあるが、コロナ前の水準以上になってきているものもある。
さつきバス	53,910人/年	54,273人/年	51,781人/年	
電話で予約バス	29,010人/年	27,422人/年	27,586人/年	
おでかけしよKar Kバス	1,680人/年	―（運行終了）	1,396人/年	利用者の減少等により、R6.11月末で運行終了。
一般タクシー	52,560人/年	36,957人/年	52,322人/年	タクシー利用は、新可児駅をはじめとして鉄道利用者の減少に伴い、大きく減少したと推察される。

■公共交通の利用者数の総合的な満足度の増加

※Ｒ５年度中間評価による市民アンケート結果より。

公共交通総合満足度（満足＋やや満足）	現状値より増加	※　12.2%	17.0%	60歳以上を中心に満足度が低下している。主には、鉄道の利便性やバスの便数を中心に「不満」が多い。

基本方針Ⅰ

可児駅・新可児駅、西可児駅を中心とした公共交通ネットワークの維持を基本としつつ、高齢者の日常生活や若者の通学を支える、まちづくりや観光振興と連携した公共交通サービスの提供

■（目標値）公共交通を利用する割合の増加

※実績値の「2023」は、Ｒ５年度中間評価による市民アンケート結果より。

目標とする指標	目標値[2026]	実績値[2023]	計画策定時[2017]	考察
ＪＲ太多線	35.0%	28.5%	33.3%	鉄道利用は、コロナ禍による生活スタイルの変更等により、利用が伸び悩む状態である。
名鉄広見線	54.0%	48.5%	53.1%	
路線バス	17.0%	9.2%	14.2%	便数の減少により、利用者の減少がある。
ＹＡＯバス	4.0%	0.8%	2.4%	主な利用者である高校の生徒数が減少している。
さつきバス	9.0%	6.2%	6.2%	便数が少ないことで利用しづらい現状がある。
電話で予約バス	5.0%	2.2%	2.6%	利用者満足度は高いものの、認知度に課題がある。
Ｋバス・Ｋタク	4.0%	0.5%	1.6%	－
一般タクシー	34.0%	21.3%	32.2%	タクシー料金の値上げによる利用控え等の影響があると推察される。

基本方針Ⅱ

地区住民が日常生活の中で安心して利用でき、来訪者にもわかりやすい公共交通利用環境の充実

■（目標値）公共交通を利用する割合の増加

※実績値の「2023」は、Ｒ５年度中間評価による市民アンケート結果より。

目標とする指標	目標値[2026]	実績値[2023]	計画策定時[2017]	考察
手持ちの路線図や時刻表の見やすさ	現状値より増加	29.6%	28.2%	広報や地域での乗り方講座等でコミュニティバスの認知度が高まったと考えられる。一方、アンケートからは、「乗継」に関して、バス待ち環境や案内の分かりにくさ等の課題が見受けられる。
乗り継ぎの情報や乗り継ぎ案内のわかりやすさ	現状値より増加	23.0%	18.4%	

基本方針Ⅲ

可児市の公共交通に関わる全ての関係者が連携・協働し、公共交通を支え育む取り組みの推進

■（目標値）地域主体または地域と交通事業者・可児市と連携した取り組みの実施

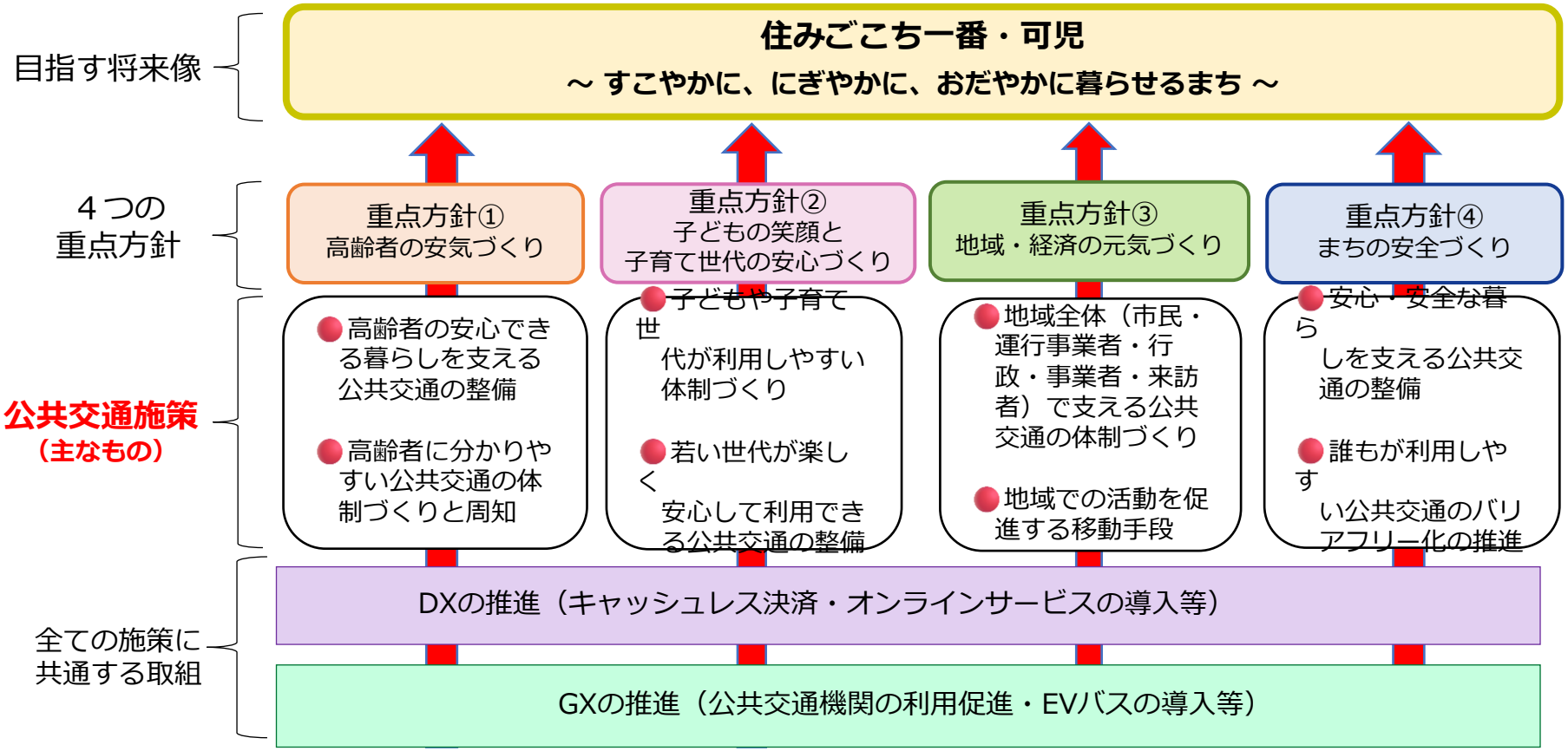
目標とする指標	目標値[2026]	実績値[2024]	計画策定時[2017]	・取組内容及び考察
地域主体または地域と交通事業者・可児市が連携した取り組み	２回／年以上	３回	－	・地域の高齢者サロン主体で、バスに乗って地域の催しに行く企画を実施。 ・貨客混載で、市内で栽培したイチゴを、東濃鉄道の高速バスで都市部へ輸送。

4.【Act】計画目標の達成に向けた今後の取組方針　の作成

計画の目標	現在の到達状況	今後の取組方針
【 基本方針Ⅰに対する目標 】 利便性の高い公共交通ネットワークやサービスが充実	・コミュニティバスは路線数や便数を維持できているものの、路線バスを中心に減便等が行われている。 ・各公共交通機関の利用者数は、目標値を達成できているものは一部であり、多くが目標値を大きく下回っている。	【さつきバス】 ・人流データを活用した路線の見直し。 ・通勤・通学時間帯の運行。 ・高齢化が進む団地への路線を中心に増便し、高齢者の足を確保。 ・ダイヤに関して、電車との接続、電話で予約バスとの接続を考慮したダイヤ編成。 ・キャッシュレス決済及びデジタル定期等の導入。 【電話で予約バス】 ・運行区域の変更と乗継の利便性向上。 ・「認知度」に課題があり、乗り方講座を含む周知活動の強化。 【路線バス】 ・コミュニティバス化への移行も含め、利便性の向上を図る。
【 基本方針Ⅱに対する目標 】 公共交通の利用のしやすさ・わかりやすさが向上	・１日乗車券やバスロケーションシステムの導入。 ・バリアフリーに配慮した車両導入や案内表示。 ・路線バスに関して、デジタル回数券等の導入が行われた。	・キャッシュレス決済やデジタル乗車券の導入。 ・GTFSの適正管理の上、バスロケーションシステムや「CentX」などを周知。 ・他の分かりやすい時刻表等を参考に、時刻表・路線図を作成。 ・利用者目線に立った案内表示（バスの行先表示や、バス停看板等）
【 基本方針Ⅲに対する目標 】 公共交通への関心や愛着が向上	・地域での乗り方講座の実施。 ・バス無料DAYや運転免許証自主返納者への支援。 ・地域公共交通協議会として担い手の確保の取り組み。	・高齢者サロン等での乗り方講座（特に実車して目的地行くこともセットに） ・子どもたちがバスに親しむ機会の創出 ・地域で行われる住民ボランティア運送の支援。

可児市市政経営計画と公共交通施策

令和９年度からの可児市地域公共交通計画（案）は、市の最上位計画である可児市市政経営計画の枠組みに基づき、各重点方針に基づく取組を公共交通が横断的に支えることができる役割・機能を目指していく。



5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
前回			
前々回			

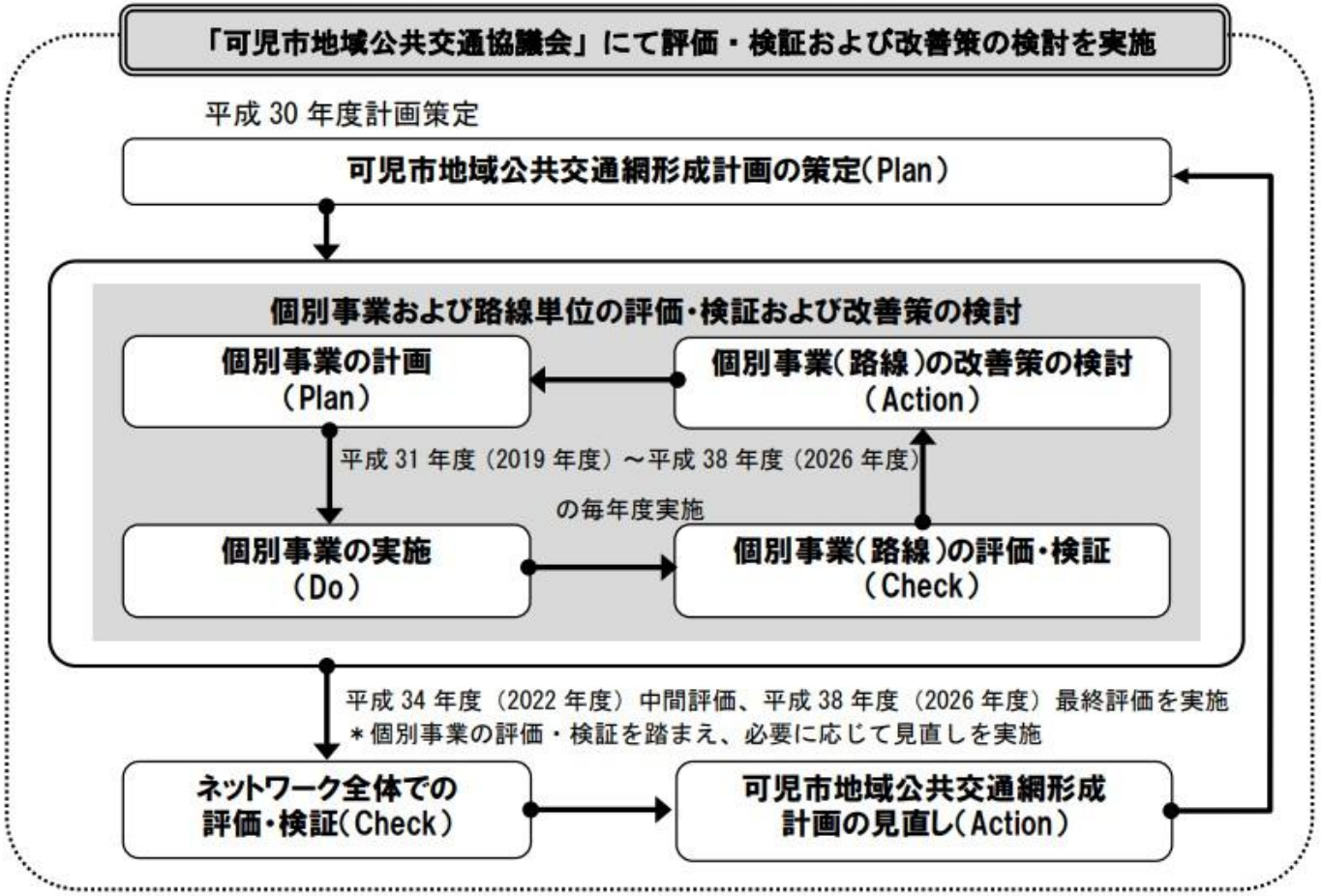
直近２年間の二次評価がないため、未記載。

※前回：○年○月○日、前々回：○年○月○日

6.計画・評価の推進体制

図　公共交通ネットワークの評価・検証の流れ

可児市地域公共交通網形成計画より抜粋



令和６年度	開催日	主な議題
第１回	７／３１	・「おでかけしよＫar Ｋバス」の廃止について、 ・前年度の事業報告
第２回（書面）	１２／１２	・「電話で予約バス」の停留所の追加について
第３回	３／１８	・可児市地域公共交通計画（案）について ・次年度の予定事業報告